

『OVER  
TURN』

菊池涼太

## あらすじ

構成員の拓海(35)と直人(27)は、ダイヤと金の取引の為ホテルへ向かう。しかし、宝石商のアン(27)に撃たれる拓海、車内で待つ直人。鏡の中の反転したもう一つの世界では、同じ事が起きている。が、人の生死は変わってしまふ。

## 作品ビジュアル

鏡の中の左右反転した世界を、一つのパラレルワールドと捉えてストーリーを展開する。従来のパラレルワールドとは違い、言動も行動も変えていないのに、結末が変わってしまう。そんな試みだ。

二つの世界の切り替えが分かりやすく、尚且つ、視聴者に予想できないタイミングで映像を構成。また、視覚と聴覚で表現する映像作品において、タバコの匂いという嗅覚の部分でストーリーが転調する。

日本語が分からない人でも、観ていて楽しい、20分間飽きさせない作品を目指す。

## 登場人物

直人(27) 構成員

拓海(35) 構成員

アン(27) 宝石商の女

小池(21) ホテルウーマン

鈴木(40) ホテルマン、小池の上司

○ホテル・部屋

デジタル時計、20時55分の表示。少しして20時56分になる。

ドアが開き、アン(27)が入ってくる。

○路上・車内

直人(27)、運転している。

拓海(35)、助手席に。

直人「21時15分でしたっけ？」

拓海「おう」

直人「今日の取引、大丈夫そうですか？」

拓海「何が？」

直人「何がって、こういう仕事だし」

拓海「んー」

直人「相手、女らしいですよ」

拓海「だから？」

直人「うちが仕入れたダイヤを渡して、その

女から金を受け取る。それだけですよね？」

拓海「そうだよ、いつもと一緒」

直人「取引相手が女なんて初めてで」

拓海「銃使ったことあるやつが何言ってるんだ」

直人「使ってないですよ、触っただけです」

拓海、タバコを吸い始める。

直人「ちよっと、匂いつくじゃないですか」

直人、窓を開ける。

拓海「へへっ」

直人「タバコなんて、時代じゃないっすよ」

拓海「余計なお世話だよ」

直人「身体に悪いっすよ」

拓海「肺は二つあるから平気」

直人「どういう理屈ですか、心臓にも悪いし」

拓海「心臓も二つあればいいのにな」

直人「なんすかそれ、左側に一つだけですよ」

拓海「おっとそこ曲がって」

直人「はい」

拓海「一つしかないここも大事にしないとな」

拓海、直人の股間を握る。

直人「痛っ！」

車、急カーブ。

○ホテル・地下駐車場・車内

車のデジタル時計、**21**時**09**分の表示。

直人、車を降りようとする。

拓海「お前ここにいろ」

直人「え？」

拓海「俺一人で行く」

直人「……分かりました」

拓海「**55**分になっても俺から連絡なかったら、

なんかあったってことで」

直人「え、マジっすか？」

拓海「メールじゃなくて電話な」

直人「やっぱ今日、普通の取引じゃないんで

すか？」

拓海「はなから普通じゃねーだろ」

拓海、車を降りる。

○同・フロント

拓海、立っている。

○同・部屋

アン、座っている。

デジタル時計、21時20分の表示。

小さい秒針の音。

ドアの開く音と同時に21時21分になる。

秒針のリズムで足音がする。

拓海、現れる。

アン「遅刻」

拓海「あんた宝石商か？」

アン「そうよ」

拓海「あそう」

アン「座れば？」

拓海、座らない。

拓海「で、どうする？」

アン「ダイヤ出して」

拓海、ダイヤの入った袋をテーブルに置く。

アン、内ポケットから何かを出そうとする。

インターホンが鳴る。

拓海「はい」

拓海、席を離れる。

○同・地下駐車場・車内

直人、シャツの匂いを嗅ぐ。

直人「最悪」

○同・部屋

アン、内ポケットから手を戻す。

拓海、パフエを持って戻ってきて座る。

拓海「これこれ」

アン「……」

拓海、スプーンをライターで炙りだす。

アン「消毒してどうするの？」

拓海「ちげーよ、これでアイスが食べごろに」

拓海、スプーンをアイスに刺す。

拓海「へへっ」

アン「……」

アン、内ポケットから宝石鑑定用ルーペを出し、ダイヤを鑑定し始める。

× × ×

拓海 「つーか宝石商は売る方じゃねーの？」

アン 「……」

拓海 「買って高く売りつけるのか」

アン 「……」

拓海、食べ終わりタバコに火をつける。

アン 「殺すわよ」

拓海 「タバコの匂い嫌いか？あんたも」

アン 「煙で鑑定できなくなるの」

拓海 「なるほどねー」

拓海、タバコの煙をアンの方に吐く。

アン、拓海を睨みつける。

拓海 「分かった分かったもうしねーよ」

アン、鑑定を続ける。

拓海 「鑑定してる時にさ、銃向けられたらど

うすんの」

アン 「殺意があればわかるわ」

拓海 「へー」

○同・地下駐車場・車内

直人、グローブボックスの中の銃を  
認める。

車のデジタル時計、21時42分の表示。

○同・部屋

アン、鑑定し終わる。

拓海「全部本物だったろ？」

アン「そうね」

拓海「で、金は？」

立ち上がるアン、アタッシェケースを  
差し出す。

拓海「おい、暗証番号あるじゃねーか」

アン「そうね」

拓海「何番だよ」

アン「4」

拓海、四桁の最初を4に回す。

アン「えーと、いくつだったかしら」

アン、後ろを向く。

拓海 「早くしろ」

アン 「3」

拓海、二つ目を∞に回す。

拓海 「次は？」

アン 「2」

拓海 「……」

アン 「1」

拓海 「お前」

拓海、立ち上がる。

アン、サイレンサー付きの銃で拓海の左胸を撃ち抜く。拓海のタバコが転がる。

アン 「ばーん」

アン、部屋を後にする。

○同・地下駐車場・車内

車のデジタル時計、21時48分の表示。

直人 「拓海さんどうしたんだよ」

○同・エレベーター内

アン、乗っている。

○同・地下駐車場・車内

車のデジタル時計、21時55分の表示。

直人「あーくそ」

直人、拓海に電話を掛ける。

直人「なんで出ないんだよ」

直人、銃を懐に入れる。

直人、再度電話を掛けながら車を降り、

ホテル室内へ向かう。

○同・同

直人、歩いている。

奥からアンが歩いてくる。

直人、電話を切る。

近づく二人。

すれ違う二人。

部屋へと急ぐ直人、曲がり角を走っている。

○同・受付

直人、走っている。

○同・エレベーター内

直人、乗っている。

エレベーター、途中で停まる。

小池(21)、入ってこようとする。

直人「停めんじゃねえ！」

小池「す、すみません」

直人、ボタンを連打する。

○同・部屋

拓海、倒れている。

直人、入ってくる。

直人「拓海さん？大丈夫ですか？！」

拓海、死んでいる。

直人「拓海さん！」

デジタル時計、22時05分の表示が鏡に映り、反転して20時55分に見える。

鏡に映ったデジタル時計、20時56になる。

《左右反転した世界になっている》

○（反転）ホテル・部屋

ドアが開き、アンが入ってくる。

○（反転）路上・車内

直人、運転している。

拓海、助手席に。

直人「21時15分でしたっけ？」

拓海「おう」

直人「今日の取引、大丈夫そうですか？」

拓海「何が？」

直人「何がって、こういう仕事だし」

拓海「あー」

直人「相手、女らしいですよ」

拓海「だからどうしたよ」

直人「うちが仕入れたダイヤを渡して、その

女から金を受け取る。それだけですよね？」

拓海「そうだよ、いつもと一緒」

直人「取引相手が女なんて初めてで」

拓海「銃使ったことあるやつが何言ってるんだ」

直人「使ってないですよ、触っただけです」

拓海、タバコを吸い始める。

直人「ちよっと匂いつくじゃないでか」

直人、窓を開ける。

拓海「へへっ」

直人「タバコなんて、時代じゃないっすよ」

拓海「余計なお世話だよ」

直人「身体に悪いっすよ」

拓海「肺は二つあるから平気」

直人「どういう理屈ですか、心臓にも悪いし」

拓海「心臓も二つあればいいのにな」

直人「なんすかそれ、左側に一つだけですよ」

拓海「おっとそこ曲がって」

直人「はい」

拓海「一つしかないここも大事にしないとな」

拓海、直人の股間を握る。

直人「痛っ」

車、急カーブ。

タイトル「OVER TURN」

○(反転)ホテル・地下駐車場・車内

直人、車を降りようとする。

拓海「お前ここにいろ」

直人「え？」

拓海「俺一人で行く」

直人「∴分かりました」

拓海「五分になっても俺から連絡なかったら、  
なんかあったってことで」

直人「え、マジっすか？」

拓海「メールじゃなくて電話な」

直人「やっぱ今日、普通の取引じゃないんで  
すか？」

拓海「はなから普通じゃねーだろ」

拓海、車を降りる。

○（反転）同・部屋

アン、座っている。

ドアの開く音がする。

秒針のリズムで足音がする。

拓海、現れる。

アン「遅刻」

拓海「あんた宝石商か？」

アン「そうよ」

拓海「あそう」

アン「座れば？」

拓海、座らない。

拓海「で、どうする？」

アン「ダイヤ出して」

拓海、ダイヤの入った袋をテーブルに置く。

アン、内ポケットから何かを出そうとする。

インターホンが鳴る。

拓海「はい」

拓海、席を離れる。

○（反転）同・地下駐車場・車内

直人、シャツの匂いを嗅ぐ。

直人「最悪」

○（反転）同・部屋

アン、内ポケットから手を戻す。

拓海、パフェを持って戻ってきて座る。

拓海「これこれ」

アン「……」

拓海、スプーンをライターで炙りだす。

アン「消毒してどうするの？」

拓海「ちげーよ、これでアイスが食べごろに」

拓海、スプーンをアイスに刺す。

拓海「へへっ」

アン「……」

アン、内ポケットから宝石鑑定用ルーペを出し、ダイヤを鑑定し始める。

× × ×

拓海 「つーか宝石商は売る方じゃねーの？」

アン 「……」

拓海 「買って高く売りつけるのか」

アン 「……」

拓海、食べ終わりタバコに火をつける。

アン 「殺すわよ」

拓海 「タバコの匂い嫌いか、あんたも」

アン 「煙で鑑定できなくなるの」

拓海 「なるほどねー」

拓海、タバコの煙をアンの方に吐く。

アン、拓海を睨みつける。

拓海 「分かった分かったもうしねーよ」

アン、鑑定を続ける。

拓海 「鑑定してる時に、銃向けられたらどう

すんの？」

アン 「殺意があればわかるわ」

拓海 「へー」

○（反転）同・地下駐車場・車内

直人、グローブボックスの中の銃を確  
認する。

○（反転）同・部屋

アン、鑑定し終わる。

拓海「全部本物だったろ？」

アン「そうね」

拓海「で、金は？」

立ち上がるアン、アタッシュケースを  
差し出す。

拓海「おい、暗証番号あるじゃねーか」

アン「そうね」

拓海「何番だよ」

アン「ヤ」

アン「えーと、いくつだったかしら」

アン、後ろを向く。

拓海「早くしろ」

アン「3」

拓海「次は？」

アン 「2」

拓海 「……」

アン 「1」

拓海 「お前」

拓海、立ち上がる。

アン、サイレンサー付きの銃で拓海の

右胸（反転している為）を撃ち抜く。拓

海のタバコが転がる。

アン 「ばーん」

アン、部屋を後にする。

○（反転）同・地下駐車場・車内

直人 「拓海さんどうしたんだよ」

○（反転）同・部屋

拓海、なんとか起き上がり直人に電話  
を掛ける。

○（反転）同・エレベーター内

アン、乗っている。

○（反転）同・地下駐車場・車内

直人、拓海から電話が掛かってくる。

直人「拓海さん大丈夫ですか？」

拓海の声「よく聞けよ」

直人「え？」

拓海の声「グレーのコートを着た女、取引相

手の女に撃たれた」

直人「う、撃たれた？え、その、あ」

○（反転）同・部屋

拓海、直人と電話している。

拓海「落ちつけ！」

直人の声「え、あ、拓海さん喋らない方が」

拓海「いいから聞け、その女、車のキーを持つてた、そっちに行くはずだ」

○（反転）同・地下駐車場・車内

直人、拓海と電話している。

拓海の声「でも手は出すな」

直人、銃を懐に入れる。

拓海の声「そいつの車のナンバーを見とけ」

直人、電話をしながら車を降りて、ホ

テル室内へ向かう。

○（反転）同・同

直人、歩いている。

アン、奥から歩いてくる。

拓海の声「ナンバーと車種と、その女の癖で

も何でもいいから覚え」

直人、電話を切る。

○（反転）同・部屋

拓海、電話が切れて、立ち上がる。

拓海「くそっ」

拓海、苦しみながら部屋を出る。

○（反転）同・地下駐車場

直人とアン、歩いている。

近づく二人。

直人、銃でアンを撃とうとする。

アン、それよりも早く銃で直人を撃つ。

直人、倒れる。

○（反転）同・廊下

拓海、エレベーターを待っている。

業務用エレベーターから従業員が降りてくる。見つめる拓海。

○（反転）同・地下駐車場

アン、直人を引きずり隅に置く。

アン「汚れちゃったわ」

アン、車に乗り込む。

○（反転）同・従業員通路

拓海、胸を押さえながら歩いている。

パフェを部屋に届けてくれた小池、拓海を見つける。

小池「うわ！お客様どうされました？」

拓海「甘すぎ」

小池「え？」

拓海「パフエが甘すぎて胸やけしてんだよ！」

小池「も、申し訳ありません！すぐに作り直

します」

過ぎていく拓海。

そこに鈴木（ハコ）がやってくる。

鈴木「小池、次はエレベーター内の掃除」

小池、呆然としている。

鈴木「小池？おい、聞いてんのか？」

小池「……」

○（反転）同・地下駐車場

拓海、肩でドアを開けてくる、銃のス

ライドを歯で噛んで引く。

アンの運転する車、奥から走ってくる。

○（反転）同・同・車内

アン、左ハンドルの車を運転している。

アン「まだ生きてたのね」

○（反転）同・同

拓海、何とか銃を構え、アンの車に発砲する。

アン、車で拓海を轢く。

鈍い音、急ブレーキの音。

○（反転）同・同・車内

アン、右腕を負傷し、左手でルームミラーを触り、後ろに倒れている拓海を確認しようとする。

しかし、ルームミラーに映っているのはアン。

直人の声「あんな奴に」

≪元の世界になっている≫

○ホテル・地下駐車場・車内

直人、左手でルームミラーを確認している。

○（回想）ホテル・地下駐車場

直人、歩いている。

奥からアンが歩いてくる。

直人、電話を切る。

近づく二人。

すれ違う二人。

直人、立ち止まり、

直人「お姉さん、火かしてもらえますか？」

アン、振り返って直人を撃とうとする。

直人、それよりも早くアンを撃つ。

部屋へと急ぐ直人、曲がり角を走って

いる。

奥に倒れているアン。

○（戻って）ホテル・地下駐車場・車内

直人、ルームミラーから手を肘掛へ。

○同・部屋

転がった拓海のタバコが消えている。

○同・地下駐車場・車内

カーナビの音声流れる。

カーナビ「行き先を指定して下さい」

直人、タバコを吸い始め、

直人「大きなお世話だよ」

○同・地下駐車場

直人の車が走り出す。

《完》